

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒が将来の夢を明確な目標として堅持し、それに向けて努力を継続できるよう、個別にサポートできる体制づくりに取り組む
- 2 規律正しい生活及び家庭学習の習慣を確立させ、自習室の利用等による自律的学習の強化を図るとともに、主体的に部活動に参加できるバランスのとれた生徒の育成に取り組む
- 3 あいさつ、敬語の使い方等のコミュニケーション能力をさらに向上させるとともに、他人への思いやりある生徒の育成に取り組む
- 4 国際交流を始めとする生徒・保護者の多様なニーズに応え、地域の幼稚園、保育所、小・中学校等の教育資源との連携や各種の地域活動への参画などを通じた生徒の自尊感情の高まりによる「国際感覚を備えた地域に貢献できる若きリーダーの育成」に取り組む
- 5 人格形成、学習指導、キャリア教育等において、さらなる満足度アップを実現する、元気でたくましい生徒があふれる「明るくさわやかな学び舎」「安全・安心の学び舎」づくりに取り組む

2 中期的目標

1 さらなる学力の向上及び進路の保証

(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。

ア グループワークを取り入れることにより、主体的な学びをめざし、協同作業及び討論を行わせ、発表能力を向上させる。

イ タブレット端末を含む ICT の活用により生徒の興味を引き出すとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れ、教員と生徒及び生徒同士がキャッチボールができる授業を行い、脳の活性化を促すとともに授業時間を有効に活用する。

ウ 少人数展開や進路別授業、実験・実習の充実により全教科でわかる授業を展開する。

(2) 個々の進路希望を実現する新カリキュラムによる学習指導を進め、家庭学習指導、個別指導の充実を図ることにより、進路の保証に結び付ける。

ア 生徒の進路希望を尊重した選択科目により、主体的に学ぶ意欲を引き出す。

イ 受験用学習教材を用いるとともに、取組みやすい学習課題づくりや小テストの実施等により、家庭学習の重要性を認識させる。

ウ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。

※生徒向け学校教育自己診断【授業満足度】（平成 27 年度 66.9%）を平成 30 年度には 75%に、【カリキュラム満足度】（平成 27 年度 67.7%）を 75%にする。

※国公立大学合格 10 名以上、関関同立合格のべ 100 名以上（看護・医療系、公務員等一人一人の目標への指導を含む）

2 キャリア教育のための環境づくり

(1) 自立・自律した人間として、将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。

ア 土曜授業を念頭に置いた「志学」、「総合」、LHR の中期的計画及び指導計画を策定する。

イ 地域連携、国際交流の充実に向けた体制を整備する。

ウ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。

エ 読書活動を推進する。（平成 28 年度学校経営推進費事業による「さやまアクティブ・ライブラリー」に取り組み、生徒の読書量を増大させる。）

オ 狭山生として必要なルールである「さやまスタンダード」の徹底を図る。

(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。

ア 多様な機会を生かした人権教育を推進する。

(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。

ア 学校としての相談体制を明確にするとともに、学年団（担任）及び部活動における相談体制を確立する。

イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、退部した生徒のフォローに努める。

※生徒向け学校教育自己診断【学校生活満足度】（平成 27 年度 78.5%）を平成 30 年度には 85%に、【相談体制満足度】（平成 27 年度 65.1%）を 70%にする。

3 学校改革に向けての盤石な体制づくり

(1) 教職員による体制づくりに取り組む。

ア SP 委員会 NEXT により、学校の将来像を検討するとともに、課題解決案を提案する。

イ 事態対処の事例研究により、教員のノウハウを伝承するとともに人材育成を行う。

ウ 合理的配慮に関する理解を深めるための教員研修を実施する。

エ 創立 40 周年実行委員会を立ち上げる。

オ さやまカップの実施により、学校の活動を周知する。

(2) PTA、同窓会等活動の活性化に取り組む。

(3) 学校協議会の提言を具現化する。

※教員向け学校教育自己診断【学校運営への参画意識】（平成 27 年度 71.5%）を平成 30 年度には 80%にする。

※保護者向け学校教育自己診断【学校満足度】（平成 27 年度 86.5%）を平成 30 年度には 90%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(全般)</p> <p>全般的に満足度が 3 年連続で上昇したのは、学校における各種活動が活発化し、「チームさやま」の強力な集団が形成されたためと考える。 (学習指導等)</p> <p>授業満足度の 2 年連続の上昇は、アクティブ・ラーニングの取り組みにより、多岐にわたる授業が提供されているためと料する。 (進路・キャリア教育等)</p> <p>キャリア教育満足度は、過去 2 年の急上昇の後安定したので、学年の取り組みが定着したものとする。 (学校の体制)</p> <p>人権意識の向上、危機管理意識の急上昇等、学校の安全・安心に関する要素が定着してきている。</p>	<p>第 1 回（6 月 1 日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 読書活動を中学校を含め地域で推進してはどうか。 2 食堂業者が替わったことをアピールしてはどうか。 3 富田林高校の募集人数が減るので、今年がチャンス！ <p>第 2 回（11 月 30 日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制服改定での膝丈基準は重要である。 2 未来の教育講座発表会（プレゼン、ビブリオバトル）はとてもよい取り組みである。 3 「地域で学ぶ」という意識を持って、地域活動に主体的に参加してほしい。 <p>第 3 回（2 月 8 日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設に対する意識の差が教員と生徒間であるが、具体的の上申すべきである。 2 分析の結果、遅刻には地域差があり意識改革が必要であるが、個別に理由の分析も必要ではないか。 3 保護者の満足度等、数値の経年変化は、学校における活動の状況を物語っている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 さらなる学力の向上及び進路の保証	<p>(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。</p> <p>ア グループワーク導入による協同的学び、発表能力の向上</p> <p>イ ICT の活用による教員と生徒の対話の実現及び授業の効率化</p> <p>ウ 少人数展開、進路別授業等同質集団による授業の質の向上</p> <p>エ アクティブ・ラーニング型授業の推進</p> <p>(2) 個々の進路の保証</p>	<p>(授業力の向上)</p> <p>ア グループワークを取り入れ、少人数で協同作業、討論を行うことにより生徒に自信をつけさせるとともに、発表能力を向上させる。</p> <p>イ タブレット端末を含む ICT を活用することで生徒の興味を引き出し、教員と生徒がキャッチボールしやすい環境をつくる。また、プロジェクター、黒板、プリント等をバランスよく用いて集中力を持続させ、授業時間を有効に活用する。</p> <p>ウ 少人数展開、進路別授業で理解度を向上させる。また、実験・実習を充実させ経験値を上げることで理解度を向上させる。</p> <p>エ アクティブ・ラーニング型授業を行う教諭の研究授業を行い、教諭間の共有を図る。</p> <p>ア 選択科目により主体的学びを引き出す。</p> <p>イ 講習・補習・勉強合宿等勉強会を充実させる。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【授業満足度70%】 (H27年度66.9%):生徒</p> <p>【カリキュラム満足度70%】 (H27年度62.7%):生徒</p> <p>【ICTの活用度50%の維持】 (H27年度51.0%):教員</p> <p>(授業アンケート:3.12→3.11)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業研究チームによる校内研修の実施 講習や学習イベントへの参加生徒満足度向上(企画ごとの生徒満足度調査・平均80%目標) 国公立大学合格:10名以上 関関同立合格:のべ100名以上 看護・医療系、公務員等生徒のニーズによる講習の実施 	<p>(授業力の向上)</p> <p>28年度はアクティブ・ラーニングに積極的に取り組み、「グループワーク」「ICTの活用」はさらに進み、ICTを活用する教員は51%である。(◎)</p> <p>授業アンケートの結果が、1学期3.18、2学期3.14と、25年度以来上がり続けている。その結果、授業満足度69.7%、カリキュラム満足度67.2%と、さらに上昇した。教員の挑戦と努力により、生徒から見て多様な授業が展開されている。(◎)</p> <p>受験を念頭に置いた各種学習イベントには多くの生徒が参加し、生徒一人ひとりが望む進路保証が実現できている。(○)</p> <p>(大学合格状況)3月28日現在 国公立大学:8名(浪人2名を含む) 関関同立:77名、慶応:1名 近大:101名、産甲龍:40名 公務員:大阪府警4名、消防2名等計8名</p>
2 キャリア教育のための環境づくり	<p>(1) 将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。</p> <p>ア 「志学」等の中期的計画の策定</p> <p>イ 地域連携、国際交流の充実に向けた体制整備</p> <p>ウ 当面の進路決定に必要なプログラムの準備</p> <p>エ 読書活動の推進</p> <p>オ 「さやまスタンダード」の徹底</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>ア 相談体制の明確化及び確立</p> <p>イ 部活動、生徒会活動等の活性化</p>	<p>(キャリア教育)</p> <p>キャリア教育を「生きること、学ぶこと、将来の職業を一体化させること」ととらえ、狭山生に自立・自律した人間として早期に目標を持たせ、将来の生き方を考えさせたい。</p> <p>ア 土曜授業を念頭に置いた「志学」、「総合」、LHRを通じて、生きる意味を考え、将来の生き方を考えさせる。</p> <p>イ 狭山池まつり等の地域活動を通じて、また幼・小・中学校との連携を通じてボランティアの意味を考えさせる。また、国際交流活動を充実させ、グローバルルームの活用を図る。</p> <p>ウ キャリアガイダンス等進路選択に必要なプログラムを準備するとともに、進路指導室、自習室をさらに活用する。</p> <p>エ マイメモリーを用いた読書活動を通じ、読書習慣を身につけさせる。また、学校図書を有効に活用し、読書活動を推進するとともに、ビブリオバトルでその成果を確認する。</p> <p>オ 狭山生として必要なルール(早起き、挨拶、自転車マナー、敬語、携帯電話、服装等)である「さやまスタンダード」を徹底する。</p> <p>(相談体制づくり等)</p> <p>ア 学校としての相談体制を明確にするとともに、学年団(担任)及び部活動における相談体制を確立する。</p> <p>イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、スロー・ジョギング等を実施し退部した生徒のフォローに努める。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【キャリア教育満足度80%】 (H27年度76.6%):生徒</p> <p>【地域連携参画意識50%】 (H27年度47.2%):生徒 (H27年度36.2%):保護者</p> <p>【国際交流参画意識65%】 (H27年度60.0%):生徒</p> <p>【相談体制の満足度70%】 (H27年度65.1%):生徒 (H27年度60.0%):保護者</p> <p>【部活動の満足度75%】 (H27年度69.9%):生徒</p> <p>【生徒会活動参画意識60%】 (H27年度56.3%):生徒</p> <p>☆図書資料年間貸出冊数:1900冊 推薦図書ブックレット発行</p> <p>【行事満足度80%】 (H27年度78.2%):生徒</p> <p>【学校生活満足度80%】 (H27年度78.5%):生徒 (H27年度86.5%):保護者</p>	<p>(キャリア教育)</p> <p>2年生が「総合的学習」とHRを活用し、ビブリオバトル、プレゼンテーションに組み込み、その成果を「未来の教育講座発表会」として実施した。(◎)学校経営推進費「さやまアクティブ・ライブラリ」の取組みで読書活動を推進し、図書貸出冊数は例年1500冊のところ、1750冊に増加した。(○)(キャリア教育満足度:74.8%)</p> <p>国際交流では、生徒約300名が、年2回中国の高校生等と交流し、また韓国及び豪州の姉妹校と交流し、60.2%となった。(○)</p> <p>地域連携においては、狭山池まつりやクリーン・アクション等、狭山池築造1400年という節目に、活動の場が広がり参画意識が49.7%に増加した。(◎)部活動の満足度は66.5%にやや下がったものの、85%の入部率はキープしており、途中で退部する生徒のフォローが大切である。(△)遅刻件数が2年連続減少した。(◎)</p> <p>(相談体制づくり等)</p> <p>相談体制の満足度67.2%、学校生活満足度77.6%と目標には届かなかったが、保護者の満足度が微増しており、安全・安心の学び舎として認識されているものと考え。(○)行事満足度77.8%、学校生活満足度77.6%と目標には届いていないが、高止まり傾向にある。(○)</p>
3 学校改革に向けての盤石な体制づくり	<p>(1) 教職員による体制づくりに取り組む。</p> <p>ア SP委員会NEXTによる学校の将来像の検討</p> <p>ウ 合理的配慮の理解</p> <p>エ 創立40周年実行委員会の立ち上げ</p> <p>オ さやまカップの実施</p> <p>(2) PTA,同窓会等活動の活性化に取り組む。</p>	<p>ア SP委員会NEXTで、本校の知名度を高めるための広報の在り方、特に中3生への有効なプレゼンテーションの仕方を考える。</p> <p>ウ 合理的配慮の理解を深めるための教員研修を実施する。</p> <p>エ 2019年度に実施する創立40周年行事の実行委員会を立ち上げ、準備を始める。</p> <p>オ 地域活動、部活動を中心として、「さやまカップ」(地域住民、生徒等との交流会)を実施することにより、学校の活動を周知する。</p> <p>PTA、後援会及び同窓会との一体化を進め、学校の応援団としての活動の活性化を促進する。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>☆ SP委員会NEXTを年8回実施しプレゼンテーション案を策定する。</p> <p>【人権意識75%】 (H27年度67.2%):教職員</p> <p>【学校運営への参画意識75%】 (H27年度71.5%):教職員</p> <p>【PTA参画意識75%】 (H27年度71.0%):保護者</p>	<p>SP委員会NEXTは、主として「制服改定」及び「広報」について年10回以上実施し、制服については案を策定した。(◎)</p> <p>合理的配慮の理解を深めるための教員研修を実施し、人権意識は目標には届いていないものの69.1%と微増した。(○)</p> <p>本校創立40周年行事の実行委員会の立ち上げは年度内にはできなかったが、校内的には一部準備が進んでいる。(△)</p> <p>運動部の「さやまカップ」に替えて、文化部による「文化部フェスタ」を1月6日に実施した。(○)</p> <p>教職員の学校運営への参画意識が77.7%と上昇し、教員間の凝集性の高まりとともに、「チームさやま」が実現している。(◎)</p> <p>保護者のPTA参画意識が72.3%と3年連続上昇した。(○)</p>